

---

---

# 2014年度 岐阜経済大学 学内ゼミナール大会 参加論文

---

---

ゼミ名 岸ゼミナールA

テーマ スポーツ指導者の指導タイプによる選手の競技意欲への影響

代表者 渡邊知将

参加者 相崎友歌 佐藤唯登 坪岡良尚 戸田汐里菜 畑中昂 平澤智大

## 目次

1. 序論
2. 方法
  - (1) 対象者と調査時期
  - (2) 調査内容
  - (3) 統計処理
3. 結果と考察
  - (1) 指導タイプの割合
  - (2) 指導タイプ別の TSMI の比較
4. まとめ
5. 引用・参考文献

## 要約

本研究では、スポーツ指導者の指導タイプによる選手の競技意欲への影響を調査と及び検討した。対象者は、岐阜県内の2つの大学および2つの高校の陸上競技部と他県1校のバレーボール部員の計182名であった。対象者には、スポーツ指導者の指導タイプを把握するために、PM指導行動測定項目を参考に、競技者向けに変更し作成したスポーツ版PM指導行動尺度24項目および、選手の競技意欲を測定するために日本体育協会のTSMIを実施した。結果は、課題達成的かつ集団維持的な指導者（PM型）が、選手の「目標への挑戦」を促し、「技術向上意欲」と「困難の克服」を高める傾向があることが認められた。また、スポーツにおける指導者やリーダーに求められる資質は、PM理論におけるPとMの両方の機能であることが本研究により裏付けられた。

# 1. 序論

スポーツ指導者には様々なタイプがあり、その指導によって選手が受ける影響が異なると予測される。例えば、常に勝つことを優先し、選手をその目的のために厳しく追い込むタイプや、勝つことよりもチームのまとまりや一体感を求めるタイプもある。プロ野球で言えば、楽天の星野監督のような厳しい闘将タイプに比べて、巨人の原監督は選手との会話を重視しながら受け入れるというタイプにも見える。

深山 (2012) は、スポーツにおけるリーダーシップ研究について、「特性アプローチ」、「行動アプローチ」、「状況アプローチ」の3つを基にリーダーシップ理論の研究が進んでいると論じている。これによると、優れたリーダーはある特性を持っているという仮説に基づいた「特性アプローチ」、優れたリーダーには共通した行動パターンがあるという仮説に基づいた「行動アプローチ」、普遍的に最適なリーダー類型は存在せず、リーダーシップ行動はリーダーの置かれた状況によって変わるという仮説に基づいた「状況アプローチ」の3つである。

なかでも「PM 理論」は「行動アプローチ」に分類され、これまでスポーツ指導者のリーダーシップ研究で多く使用されてきた。三隅 (2005) が提唱した「PM 理論」は、集団目標の達成に関する P 機能 (performance) と集団維持に関する M 機能 (maintenance) の2つ機能とそれらの高低の組み合わせによりリーダーを4タイプに分類している。図-1は、P 機能と M 機能のそれぞれの高低によって、リーダーを4タイプに分類したものである。課題達成的かつ集団維持的である PM 型、課題達成的であり集団維持的ではない Pm 型、課題達成的ではなく集団維持的である pm 型、課題達成的でも集団維持的でもない pm 型という4つの型によりリーダーシップのあり方を捉えるものである。

高	<b>pM型</b> 集団維持的	<b>PM型</b> 課題達成的かつ 集団維持的
M 機能	<b>pm型</b> どちらにも 当てはまらない	<b>Pm型</b> 課題達成的
低	低	高
	P機能	

図-1 三隅による PM 理論の分類

倉藤ら（2011）は、運動部に所属する大学生に対して調査を行い、PM型はそのタイプより自主性の値が高く、pm型は独立性の値が高いことを示している。つまりPM型の指導を受けている選手は、指導者から指定された練習を自分から進んで行い、pm型は練習内容から自分で考え、指導者がいなくても独立した存在として練習を行うことを報告している。つまり、スポーツ集団におけるリーダーシップが選手の行動に少なからず影響を与えることを示すものである。スポーツ集団におけるリーダーシップとは、指導者やキャプテンなどのリーダーと選手や部員といったフォロワーの間に築かれる関係である。

三隅（2005）は自らのPM理論を用い大学、短期大学の体育会系サークルを対象にリーダーシップのPM行動を分析した。その結果、PM型のリーダーの下ではチームワーク、モラル、コミュニケーション、集団会合のクラブ員の評価が最も高く、次いでPm型、pM型の順になり、pm型は最も評価が低い結果となった。

また、野上（1997）は体育会に所属する大学生に対してPM理論を用いリーダーシップ効果の指標を調査している。その結果、高学年の部員ほど、キャプテンの計画的P行動を高く評価し、低学年の部員ほどキャプテンのM行動を高く評価することを示している。つまり、部員の競技経験や部内での地位・役割によって、リーダーの評価が異なることが考えられる。

さらに松原（1990）は、中学校で部活動の顧問をしている教師に対して、PM理論を用いてリーダーシップ行動と競技成績について分析した。その結果、個人成績は類型間で差が見られなかったものの、団体競技成績から見ると、pM型と類型化された教師のもとで競技成績が最も高く、以下PM型、pm型、Pm型という順だったと報告し、三隅の結果と一致しなかったことを報告している。

これらの研究は、指導タイプによるフォロワーの評価や指導者がどのタイプであれば競技成績はどう変化するかという研究が中心で、練習そのものに対する影響については論じていない。指導者のタイプによって選手の競技意欲がどう影響されているかという研究はほとんど行われていない。指導者のタイプは、練習に対するモチベーションや競技への取り組み方などの競技意欲に関連していることが予想される。

そこで本研究では、スポーツ指導者を行動アプローチの観点から、三隅のPM理論を用いて、指導者のタイプと、選手の競技意欲との関連を検討することを目的とした。

## 2. 方法

### (1) 対象者と調査期間

対象者は、岐阜県内の2つの大学および2つの高校の陸上競技部と他県1校の

バレーボール部員の計 182 名である。対象者の性別は男性 142 名、女性 40 名であり、年齢層は 15 歳から 24 歳まで平均年齢は 17.8 歳であった。競技経験年数は平均 6.4 年であった。競技種目は陸上競技部 154 名、バレーボール部 28 名である。

競技成績は国際大会出場から大会出場経験なしまで多岐にわたったが、全国大会出場経験を有する者が 84 名、地区大会出場が 62 名と 8 割に達し、比較的高い競技レベルを持つ選手であると言える。

調査期間は、2014 年 9 月から 10 月半ばにかけて、対象者に質問用紙を配布して回収した。

## (2) 調査内容

スポーツ指導者の指導タイプを把握するために、三隅 (2005) が作成した PM 指導行動測定項目を参考に、競技者向けに変更し作成したスポーツ版 PM 指導行動尺度 24 項目を実施した。P 行動 12 項目、M 行動 12 項目から成り、課題達成的かつ集団維持的である PM 型、課題達成的であり集団維持的ではない Pm 型、課題達成的ではなく集団維持的である pM 型、課題達成的でも集団維持的でもない pm 型という 4 つの型によりリーダーシップのあり方を捉えるものである。各項目の問いに対して「よくあてはまる」から「全く当てはまらない」までの 5 件法で回答を求めた。

選手の競技意欲を測定するために日本体育協会 (1982) の「TSMI (Taikyo Sports Motivation Inventory) 体協競技意欲検査質問票」を使用した。17 の因子から直接競技意欲を測定するものであり、このうち、「目標への挑戦」「技術向上意欲」「困難の克服」「練習意欲」の 4 因子、計 32 項目を抽出して使用した。「よくあてはまる」から「全く当てはまらない」までの 4 件法である。

## (3) 統計処理

スポーツ指導者の PM 尺度の P 得点および M 得点を算出し、それぞれの平均点により分割して PM、Pm、pM、pm の 4 群に分類した。そして、4 群間の選手の TSMI 4 因子の得点を分散分析により比較した。統計的検定おける有意水準は 5% 未満とし、10% 未満を有意傾向とした。

# 3. 結果と考察

## (1) 指導タイプの割合

図 2 に対象となった指導者の 4 つの指導タイプの割合を示した。P 得点の平均は  $31.4 \pm 8.4$ 、M 得点の平均は  $27.2 \pm 8.2$  であった。これら 2 つの平均によって、4 つのタイプに分類した結果、課題達成的かつ集団維持的である PM 型が 53 名 29.1%、課題達成的でも集団維持的でもない pm 型が 68 名 37.4%、課題達成的であり集団維持的ではない Pm 型が 25 名 13.7%、課題達成的ではなく集団維持的である pM 型が 36 名 19.8% となった。最も多いのが、pm 型で、以下 PM、

pM、Pmの順となる。全体の4割ほどが課題達成的でも集団維持的でもないpm型の指導者であり、次に課題達成的かつ集団維持的であるPM型の指導者が続くという結果である。今回の対象者は競技レベルの比較的高い選手が多いことから、PM型の指導者が多いという結果は予想したが、pm型が最も多いことは意外なものである。対象者には大学生が多いことから、大学の指導者が選手の自主性を重視していることが考えられる。特に、高校での指導者がPM型であった場合、大学に進学して自主性を重んじる指導者というのは、選手にとってpm型と捉えられるのかも知れない。

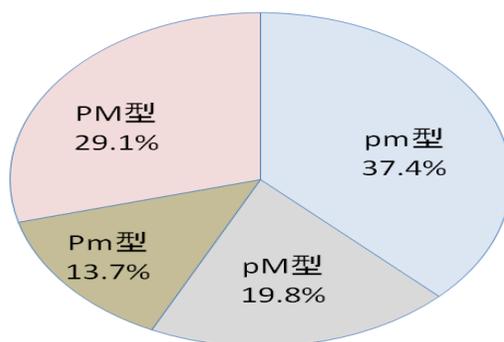


図-2 指導者の指導タイプ別割合

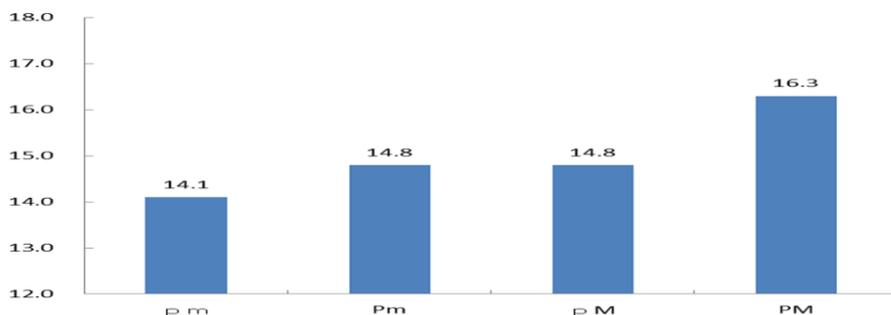
## (2) 指導タイプ別のTSMIの比較

指導タイプ別の競技意欲への影響を検討するために、4群間のTSMI 4因子得点を分散分析によって比較した(表-1)。4因子のうち、1つの因子において5%水準で有意差が認められ、2つの因子で10%水準の有意傾向が認められた。「目標への挑戦」においては5%水準で有意差が認められた。

表-1 指導者のタイプ別における競技達成意欲尺度4因子の比較

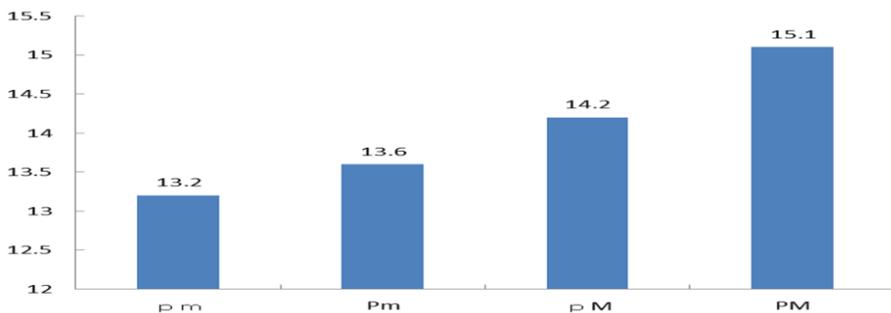
尺度	pm N=68	Pm N=36	pM N=25	PM N=53	P 値
目標への挑戦	14.1±3.6	14.8±3.3	14.8±3.7	16.3±4.3	0.0203
技術向上意欲	13.2±3.4	13.6±3.3	14.2±3.8	15.1±4.2	0.0533
困難の克服	13.8±3.6	14.5±3.8	14.9±3.7	15.8±4.2	0.0531
練習意欲	18.2±3.8	18.7±3.4	20.0±3.7	19.7±4.0	0.1035

「目標への挑戦」因子（図－3）から、PM が他の3タイプに比べて高いことがわかる。この因子は、自分で立てた目標や自己の限界に積極的に挑戦する傾向を示している。PM 型が最も高い結果となり、課題達成機能により目標が明確となり、また集団維持機能によって目標が共有されたと考えられる。三隅（2005）の大学の体育系サークルにおけるリーダーシップ研究においても、PM 型が最もリーダーとしての評価が高く、今回と同様の結果となった。課題達成的かつ集団維持的な指導者は選手の目標への挑戦を促進すると考えられる。



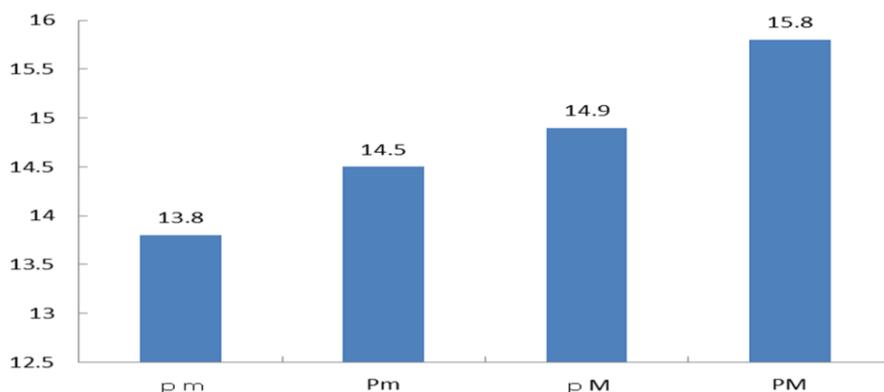
図－3 「目標への挑戦」因子の比較

次に、「技術向上意欲」因子（図－4）においては、有意差はみられなかったが、10%水準での有意傾向が認められた。この因子においても PM 型が最も高い結果となり、pM と続き、Pm、pm と低くなっている。この因子は、技能の向上を目指して積極的、持続的に努力を続けようとする傾向を示している。つまり、PM 型の指導者は選手の技術向上意欲にも影響を与えていると考えられる。勝利を追求するために技能の向上が必要となり、集団の中でお互いに刺激し合いながら技能の向上を目指していると考えられる。



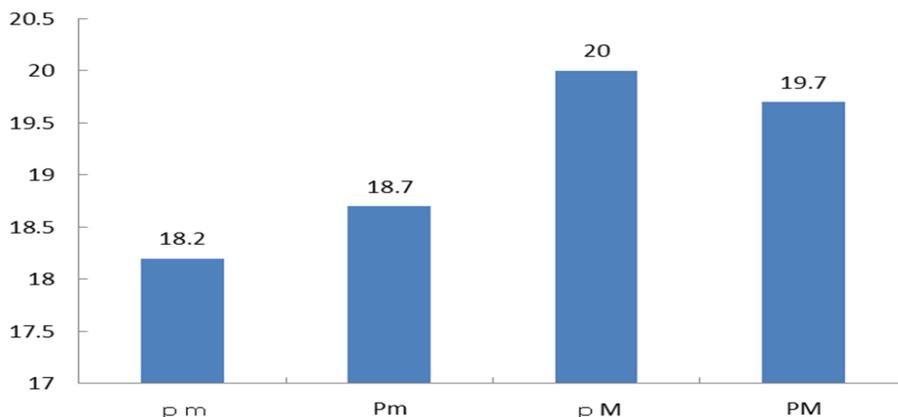
図－4 「技術向上意欲」因子の比較

次に、「困難の克服」因子（図－5）においても、10%水準での有意傾向が認められ、PM型が最も高く、pM、Pm、pmと続いていることを示している。この因子は、競技において、困難な場面に遭遇したときにくじけずにそれを克服しようとする傾向である。つまり、勝利志向で日頃から追い込んだ練習をして、集団のまとまりを持つことにより困難な場面を乗り越えることができると考えられる。



図－5 「困難の克服」因子の比較

「練習意欲」因子（図－6）においては、4群間に有意差も有意傾向も認められなかった。この因子は、練習が好きであるかどうか、意欲的かつ持続的に練習できるかどうかについての尺度である。つまり、練習自体への意欲は指導者のスタイルには関連が少なく、個人的な要素と考えられる。



図－6 「練習意欲」因子の比較

今回の研究では、「目標への挑戦」因子に有意差が認められ、「技術向上意欲」および「困難の克服」因子には有意傾向が認められた。いずれも因子においても課題達成的かつ集団維持的である PM 型の値が、最も高い結果が得られた。その反対に、課題達成的でも集団維持的でもない pm 型はどの因子でも最も低いものとなった。また、課題達成的であり集団維持的ではない Pm 型と課題達成的ではなく集団維持的である pM 型はそれほど大きな差はないということがわかる。

伊藤（2007）らは、スポーツ指導者の PM 4 類型と社会的勢力の関連を検討している。社会的勢力とは、指導者の選手に対する影響力を指している。その結果、専門性、親近性と信頼、正当性、指導意欲といった罰勢力以外の因子で、どのタイプよりも PM 型が高い影響力を持っている。このことから、指導者の影響力というものは課題達成と集団維持のどちらかではなく両方を高めていくことで初めて高めることができると指摘している。また p m 型に関しては、チームの指導者の勢力が最も弱く影響力は他のタイプに比べ極めて低いと述べている。今回の研究とは同様の結果であり、PM 型の指導者は選手の競技意欲に大きな影響を与えている一方で、p m 型の指導者は影響力が弱いと判断できる。

#### 4. まとめ

本研究は、182 名の選手を対象に、その指導者を PM 理論によりタイプ分けを行い、指導者の指導タイプによって選手の競技意欲に与える影響を検討した。その結果、課題達成的かつ集団維持的な指導者が、選手の「目標への挑戦」を促し、「技術向上意欲」と「困難の克服」を高める傾向があることが認められた。

三隅（2005）は、PM 類型のリーダーシップについて、それぞれ次のように指摘している。PM 型は、技能的、人間的に優れている指導者、Pm 型は、目標達成はよいがまとめる力がない指導者、pM 型は、人間関係はよいがチームを引っ張る力が弱い指導者、pm 型は、P 機能、M 機能のどちらも強調しない放任的指導者といったものである。スポーツ活動は、勝利という明確な課題を追求するとともにチームやクラブといった集団での活動が主体となる。スポーツにおける指導者やリーダーに求められる資質は、PM 理論における P と M の両方の機能であることが本研究により裏付けられた。

#### 引用・参考文献

- ・伊藤豊彦・中込四郎・山本裕二（2007）スポーツ心理学 からだ・運動と心の接点 株式会社培風館、123 - 132
- ・倉藤利早・田島誠・米谷正造（2011）指導者のリーダーシップのタイプが選手の自主性に及ぼす影響、川崎医療福祉学会誌、Vol20 No.2 457 - 460
- ・杉原隆・船越正康・工藤孝幾・中込四郎（2000）スポーツ心理学の世界、福村

出版株式会社、168 - 169

- ・日本体育協会（1982）「TSMI（Taikyo Sports Motivation Inventory）体協競技意欲検査質問票」
- ・野上真（1997）大学生運動部主将のシーラー湿布効果を規定する諸要因、The Japanese Journal of Experimental Social Psychology. 1997, Vol. 37, No. 2, 203-215 [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjesp1971/37/2/37\\_2\\_203/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjesp1971/37/2/37_2_203/_pdf)
- ・深山元良（2012）スポーツ集団におけるリーダーシップ研究の展望－特性、行動、状況アプローチの視点から－、城西国際大学紀要 130 - 138
- ・松原敏浩（1990）部活動における教師のリーダーシップ・スタイルの効果－中学校教師の視点からのアプローチ、教育心理学研究。38（3）：312 - 319
- ・三隅二不二（1986）リーダーシップの科学－指導力の科学的判断法－株式会社講談社、95 - 112
- ・三隅二不二（2005）リーダーシップ行動の科学、株式会社有斐閣 97 - 98
- ・吉田浩之（2009）部活動と生徒指導－スポーツ活動における教育・指導・援助のあり方、学事出版株式会社 30 - 33

## 資料

### スポーツ選手の意識調査

岐阜経済大学 経営学部  
スポーツ経営学科 岸ゼミナール  
(相崎・佐藤・坪岡・戸田・畑中・平澤・渡邊)

#### お願い

この調査は、「スポーツ指導者のタイプと選手の競技意欲」についての研究のために実施するものです。結果は、すべて統計的に処理され、あなたに迷惑をかけることは決してありません。趣旨をご理解の上、ご協力をお願いいたします。

記入日：\_\_\_\_月\_\_\_\_日

1、性別 男 ・ 女	2、年齢 _____ 歳
3、競技名 _____	競技経験年数 _____ 年
4、練習時間 週に _____ 回	1日に _____ 時間
5、あなたがこれまでに出場したことのある最も高いレベルの大会は以下のどれですか。あてはまるものに○をしてください。	
①国際大会 ②全国大会 ③地域（ブロック）大会 ④都道府県大会 ⑤市町村大会 ⑥出場経験なし	

すべての質問に答えてください。ご協力お願いします。

調査1 あなたの日頃の練習や試合における気持ち・考えについて回答してください。最も当てはまる番号に○をつけてください。

1…よくあてはまる/2…ややあてはまる

3…あまりあてはまらない/4…全くあてはまらない

- |  |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|
| (1) 一流選手になる為には、どんな障害も乗り切ることができる。                     | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (2) 新しい技術を習得するときには、それが完成するまで努力を続ける。                  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (3) 困難なことに出くわしたとき、さっと他の事に移るより、それを乗り越えようと努力する。        | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (4) 練習場へは、誰よりも早く出るようにしている。                           | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (5) 勝つため、記録を出すために必要なら、どんなきつい練習にも耐えることができる。           | 1 | 2 | 3 | 4 |
| .  |   |   |   |   |
| (6) 練習では自分の弱点を克服することにつとめている。                         | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (7) ひとつの事をやりはじめたら、最後までやらないと気がすまない方だ。                 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (8) 常に練習のことを考えて、日常生活をしている。                           | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (9) 一つの事をやり遂げようとするれば、他のものを犠牲にしてまで努力する。               | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (10) 新しい技術を与えられたら、それをマスターするまで頑張る。                    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| .  |   |   |   |   |
| (11) ひとつのことがうまくいかない時、それをやめて他のことをするより、それができるまで努力し続ける。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (12) 練習は大切なので、他の事（例えば遊び）を犠牲にしても練習をやる。                | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (13) 目標を立てたら、途中であきらめることなく最後まで努力できる。                  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (14) 自分の満足できないプレーは、納得するまで練習をする。                      | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (15) 困難な状況におかれても、それを乗り越えようと努力する。                     | 1 | 2 | 3 | 4 |
| .  |   |   |   |   |
| (16) 仲間が集まると競技の話ばかりする。                               | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (17) ある技術をマスターするためには、人一倍努力する方だ。                      | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (18) もし、ある大会で優勝したとしても、引き続き努力を怠らない。                   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (19) 自分の言ったことは、必ずといっていい程、実行しようとする。                   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (20) 暇な時間があれば、練習をすべきである。                             | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (21) いつも、自分がどれだけやれるか可能性に挑戦している。                      | 1 | 2 | 3 | 4 |

- |  |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|
| (22) 新しい技術を学ぶ時には、段階的に目標を立てて練習する。           | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (23) 1度や2度の失敗には負けず、自分の力の限り挑戦することが多い。       | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (24) 通常の練習が終わった後でも、残ってさらに練習する。             | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (25) たとえ到達できそうな目標であっても一生懸命努力する。            | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (26) 自分の能力をためすような機会がある時は、積極的にそれに参加する。      | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (27) スランプにおちいったら、自分の納得いくまで練習を繰り返す。         | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (28) 私は人から「練習のむし」だとよく言われる。                 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (29) 試合に負けそうな時でも、決してあきらめず最後まで全力を尽くすことができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (30) いいプレイヤーの技術を習得しようと絶えず研究している。           | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (31) スランプになっても、それを克服するために意欲的に取り組む。         | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (32) 何かの都合で練習ができないと気分がわるい。                 | 1 | 2 | 3 | 4 |

調査 2 現在のあなたの指導者・コーチについて、  
最も当てはまる番号に○を付けてください。

1…よくあてはまる／2…ややあてはまる／3…どちらでもない／  
4…あまりあてはまらない／5…全くあてはまらない

- |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
| (1) あなたの指導者は規則に決められた事柄にあなたが従うことをやかましく言いますか              | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (2) あなたの指導者はあなたの方の仕事に関してどの程度指示命令を与えますか。                 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (3) あなたの指導者は課題を与えるときに、いつまでに仕上げればいいかを明確に示してくれますか         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (4) あなたの指導者は練習量ことをやかましく言いますか。                           | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (5) あなたの指導者は所定の時間までに練習を完了するように言いますか                     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (6) あなたの指導者はあなたがたを最大限に練習させようとすることがありますか                 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (7) あなたの指導者はあなたが試合でミスをしたとき、あなた自身を責めるのではなく練習内容のまずさを責めますか | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

1…よくあてはまる/2…ややあてはまる/3…どちらでもない/  
4…あまりはてはまらない/5…全くあてはまらない

- (8)あなたの指導者はあなたが使っている  
器具、設備のことを知っていますか 1 2 3 4 5
- (9)あなたの指導者はその日の練習の計画や内容を知らせてくれますか 1 2 3 4 5
- (10)あなたの指導者は練習の進み具合についての報告を求めますか 1 2 3 4 5
- .
- (11)あなたの指導者の計画、手順がまずいために  
練習時間が無駄になるようなことがありますか 1 2 3 4 5
- (12)あなたの指導者は毎月の目標の達成のための計画を  
どの程度綿密に立てていますか 1 2 3 4 5
- (13)あなたの指導者はチームにきまづい雰囲気があるとき、  
それを解きほぐすことがありますか 1 2 3 4 5
- (14)あなたは、練習のことであなたの指導者と気軽に  
話し合うことができますか 1 2 3 4 5
- (15)あなたの指導者は練習に必要な設備の改善などを  
申し出るとその実現のために努力しますか 1 2 3 4 5
- .
- (16)全般的に見てあなたの指導者はあなたを支持してくれますか 1 2 3 4 5
- (17)あなたの指導者は個人的な問題に気を配ってくれますか 1 2 3 4 5
- (18)あなたの指導者はあなたを信頼していると思いますか 1 2 3 4 5
- (19)あなたの指導者はあなたが優れた結果を残したとき、  
それを認めてくれますか。 1 2 3 4 5
- (20)あなたのチームで問題が起こったとき、  
あなたの意見を求めますか 1 2 3 4 5
- .
- (21)あなたの指導者はあなた方の立場を理解しようとしていますか 1 2 3 4 5
- (22)あなたの指導者は進学や就職など、  
あなたの将来について気をくばってくれますか 1 2 3 4 5
- (23)あなたの指導者はあなた方を公平に取り扱ってくれますか 1 2 3 4 5
- (24)指導者はあなたに対して好意的ですか 1 2 3 4 5

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。